

NPO 法人岡崎がくどうの会

基礎研修レポート 2022「生活と集団づくりの方法」

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）
【名 前】（ 花田 幸奈 ）

毎日多くの子どもたちが生活している中で、自由に生活していたら集団生活が成り立たない、だからこそ学童ではルールがあってその中で子どもたちは生活をしています。それでもときどき、「もっと外に行って鬼ごっこやドッジボールがしたい！」とか、「家みたいにのんびりできる場所が欲しい！」などと子どもたちは様々な思いをぶつけてきてくれます。子どもたちがそうやって素直な思いをぶつけてくれることはとてもありがたいと思う一方で、子どもたちの思いは受け止め、共感するのだけれど、どのくらい実現できるのだろうか？子どもたちの素直な思いに対してどんな返事をしてあげよう？と頭を悩ませることも多々あります。子どもたちにとってよりよい生活を送れるようにするためにはどのように生活を作っていくのがよいのかを学びたいと思い今回はこの研修を選択しました。

“コロナの影響で子どもたちは集団生活をしてきていない。生活をつくりながら集団になっていってもらう”という講師の先生から冒頭にさらっと発せられた言葉でしたが、愕然としてしまいました。「集団生活をしながらルールを覚えていく」と考えていた私の考えとは異なっていましたが、そうやって今の子どもたちに合わせた考え方をしていくことがとても大切なことだと思いました。

自分たち指導員が経験してきたことを、必ずしも今の子どもたちが同じように経験できていると考えないこと、コロナ禍によって今の子どもたちが制限されてきていることがたくさんあるということ、そして、そんな今の子どもたちが抱える問題を知り、一緒に考えていく必要があると思いました。

最後に、講師の先生が仰っていた“帰属感の得られる居場所づくり”というのをキーワードに、学童に帰ってきたら受け入れてもらえる、のびのびできる、子どもたちにそう感じてもらえるように日々子どもたちと一緒にすごしていきたいと思います。